

令和元年度 地域懇談会 報告書

地域名	柏市風早南部地域ふるさと協議会
日 時	令和元年7月12日（金）午後1時35分～3時10分
場 所	藤ヶ谷区区民館 A・B会議室
参加者	ふるさと協議会役員等 : 12名 地域づくり推進部長 : 1名 高柳近隣センター所長 : 1名 社会福祉協議会職員 : 1名 地域支援課職員 : 5名 地域づくりコーディネーター : 1名 職場体験中の高校生 : 3名 合計 : 23名
次 第	別紙のとおり
意見 交換	ふるさと協議会役員 ・会議を行って次どうするかという結論が出ないものが多い中、今回のように地域支援課が担い手不足解消に向けた6つのキーワードということで結果を案内してくれるのは初めてである。 ・この6つのキーワードについて、当地域で出来ているかどうか検証してみた。 ・担い手不足解消に向けた6つのキーワード中、①いい雰囲気を作るについて、他の地域に比べても楽しい雰囲気活動していると思う。会長以下こんなに頑張っているふるさと協議会はないと自信を持っていいと思う。 ・キーワード③役員の負担を軽くするについて、負担とは拘束時間が長いことだと思う。市役所各課での会議が多く、昨年160の会議に出席し、目標を持って結論を導くものであればよいが、報告だけの会議が多い。どこかのセクションで統制が必要だと感じる。 ・キーワード④一緒に活動してくれる仲間を増やす、⑤若い人・子育て世代とつながるについて、青少年相談員の推薦が来たが、日ごろからお祭り後の反省会をするなど若い人とのつながりをつくってため、推薦することができた。 ・このような担い手不足解消に向けた6つのキーワードとして、目標を提示しているのはよい取り組みである。  ふるさと協議会役員 ・キーワード⑤若い人・子育て世代とつながるについて、若い人と交

流する機会がない。高柳まつりも準備するのは高齢者であり、存続が難しくなっている。中学生に声をかけるが中学校も忙しくなかなか参加してもらえない。

- ・高柳やしいの木台では、新住民が8割で、現役世代が多く、地域にとけこむ機会がない。子育て世代など若い人にどうとけこんでもらうかが課題である。青少年相談員の推薦もなかなか見つからない。
- ・キーワード⑥報酬を出すについて、10万くらい報酬を出しているところもあるようだが、区費からの負担は難しい。町会を抜けたいと言う人もおり、町会費が減っている状況である。
- ・キーワード②ふるさと協議会を知ってもらうについて、アンケートをとったことはないが、ふるさと協議会の活動は役員に任せきりであり、知っている人は少ないと思う。みなさんと協議しながら、高柳駅前パンフレット配布など啓発活動をやったほうがよいと思う。

#### 地域支援課職員

- ・風早南部地域において、今年度こずっち会議の開催を予定している。会議に先立ち、エリア内の学校を通じ保護者にアンケートを実施する。アンケート結果でふるさと協議会がどれくらい知られているかある程度わかる。今後の取り組みの参考にしてもらいたい。
- ・ふるさと協議会連合会において、ふるさと協議会を知ってもらう取り組みとして紙うちわ2,500枚を作成し、柏まつりで配布し宣伝をしていく。作成される際に参考にしていきたい。

#### ふるさと協議会役員

- ・支えあい推進委員をしている。風早南部地域においては、支えあい活動と居場所づくりを両輪で行っている。
- ・現在、たすけあい団体としてハートフル高柳、中ノ牧ふれあいサポート、ハートネットしいの木の3ヶ所の団体がある。
- ・週1型通いの場として「藤のなごみ」を毎週水曜日、藤ヶ谷区民館で行っている。
- ・高柳地域の「茶論」では長年に渡り充実した活動を行っている。
- ・藤ヶ谷区と藤ヶ谷新田区は区域が広いため、交通手段を今後検討していただきたい。
- ・住民主体の支えあい活動はすばらしく順調である。

ふるさと協議会役員

- ・「藤のなごみ」は毎週水曜日行っているがボランティアの負担になっており、広く浅く大勢の人に関わってもらい、負担軽減になればよいと思う。
- ・担い手不足には社会環境で終身雇用になっていることも影響している。
- ・こずっち会議に期待している。多くの交流の機会を持っていきたい。本当はボトムアップでやりたいが、1つの行事をやろうとするとそのための準備が負担になるため、市でやっていただけるのはありがたい。

ふるさと協議会役員

- ・高柳区の区費は2,500円で他と比べたら安い。区費は赤十字募金などほとんどが外に出ている状況だが、それでも区会員には高いと言う人もいる。
- ・住民のため、社会のために力を注ぐというのは、今まで活動に関わっていなかった人には難しい。無理矢理組織化して入ってもらう、町会から人を出してもらうことも必要である。
- ・例えば、高柳区の場合、防災用に副班長制度をつくり、人命救助に絞った活動をしている。その結果、AEDなど人命救助の講習受講者が1,000人と市内では一番多いと思う。そのように、無理矢理組織化することがよいこともある。
- ・新しく入った人に責任が重いものを任せたらすぐに辞めてしまう。防犯パトロールなど結果を求められないような、気軽にできることから参加してもらうことが、一緒に活動するきっかけになる。高柳区では防犯パトロール後の打ち上げで仲良くなっている。

ふるさと協議会役員

- ・藤ヶ谷新田区は区費が1万円である。
- ・20年前から若いお母さんたちを集めて子安講を行ってきた。その中で、地図に自分の家を書き入れて紹介しあうなど近所のつながり、仲間づくりをしてきた。「さわやか会」という会もつくった。
- ・働いているお母さんへの配慮として、「何かやるときに手伝ってくればよい」と負担をあまりさせないようにしてきた。
- ・若いお母さんから「さわやか会主催のイベントと回覧が来れば、親たちも素直に送り出してくれる」と言われたのが嬉しかった。

- ・そのような仲間づくりが防災にもつながっている。

#### ふるさと協議会役員

- ・藤ヶ谷新田区は160と世帯数が少なく、顔が見える関係であるが、葬式も家族葬になるなど人間関係は薄れている。
- ・新しい人が増えず、小学生は10数人しかいない。後継者が悩みであり、先のことを考えていかないといけない。
- ・キーワード⑤若い人・子育て世代とつながるについて、小学校と仲良くしたい、コミュニケーションをとりたいと考えている（昔遊びの指導など）。
- ・担い手不足については、退職年齢が引き上げられていることもあり、若い時からかわってもらおうとよい、そのための飲みニュケーションも一つの方法である。

#### ふるさと協議会役員

- ・農業、商店も後継者問題がある。
- ・担い手不足解消に向けた6つのキーワードとして、良い答えが出ている。この答えをしっかりとやれば解決すると思う。まだまだ明るい希望がある。市は安心してほしい。
- ・藤ヶ谷新田については、栗原さんが④一緒に活動してくれる仲間を増やす、⑤若い人・子育て世代とつながるについて、しっかり取り組んでくれている。

#### ふるさと協議会役員

- ・担い手不足解消に向けた6つのキーワードは、どこまで現実的に作ったのかという気がする。
- ・現状は、比較的元気な高齢者が支援が必要な高齢者を支えている構造である。
- ・元気な高齢者というのは以前は定年後からしばらくの間であったが、今は退職年齢が引き上げられ、退職後は元気うちに自分の楽しみもしたいという人が多い。
- ・関わり方を軽く、特定の人に負担がかからないよう、組織的に取り組んでいく必要がある。現実的には特定の人が請け負っている状況であり、役員の現状を見ているとその後を継ごうという人が出てこない。
- ・風早南部ふるさと協議会としては、年間通じ3つのイベントしか

なく、存在意義を感じにくい。ふるさと協議会が目標とする様々な地域活動を地域活動団体に行っていただいているため、ふるさと協議会としてその方々に手を差し伸べることが、存在意義になると思います、取り組んでいます。

- ・ふるさと協議会に関する行政との事務折衝がある。事務手続きは簡素にする、窓口も地域支援課ですべて受ける、ということを行政側で考えてもらいたい。

#### ふるさと協議会役員

- ・高柳区には、マンションの加入をどうするかという課題がある。管理組合への加入促進をどこまでできるか、区費をいくら集めればいいのか難しい。

#### 地域支援課職員

- ・今年度、地域支援課において、マンションの加入促進を行っていく。10階以上の集合住宅140件を対象に、加入未加入の実態調査を行なっている。

#### 地域支援課職員

- ・集合住宅は賃貸と分譲で大きく異なり、賃貸の場合には必ず管理会社があるためつくる段階で市も必ず町会長に相談するように伝えている。最近増えているのは、まとめて加入し、共益費から町会費を取り、不動産業者から町会に支払うケースである。
- ・分譲の場合、区域の町会に加入するケースと、独自に町会を立上げるケースがあり、今は単独町会の立上げが多い。このケースが今後増えてくると思う。
- ・これからできるマンションであれば、お考えの整理は地域支援課でお手伝いできる。

#### ふるさと協議会役員

- ・先ほどの話は、町会に加入していたが抜けるような集合住宅についてである。班長をやりたくない、また、近隣センターに行けばゴミ出しカレンダーを入手でき、未加入でも何も不都合がない状況である。
- ・町会に加入する意味をどのように伝えればいいのか、という課題がある。

	<p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加入者と未加入者で差がないといけないと思う。市に相談してもごみ出しや防犯灯について差がつけられないと言われた。市の法律相談で弁護士にも相談したが、加入未加入は本人の自由だと言われた。</li> </ul> <p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未加入だった人が、高齢になってから加入したいと言ってくる例もある。</li> </ul> <p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町会加入については任意のため強制はできないが、みんなで支えあうという意識の高揚が大切だと思う。現代社会ではそれが欠けてきている。</li> </ul> <p>地域支援課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市としては、町会の必要性を訴えかけ、町会への加入を働きかけていく。</li> </ul> <p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手不足解消に向けた6つのキーワードについて、努力していく。</li> </ul>
<p>いただ いたご 意見の まとめ</p>	<p>主に次のような御意見を伺った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手不足解消に向けた6つのキーワードがまとまってよかった。</li> <li>・風早南部地域ふるさと協議会の活動は非常に頑張っている。</li> <li>・負担軽減では、会議が多すぎるため統制が必要である。</li> <li>・若い人とつながるのが難しい。市とも連携をしていきたい。</li> <li>・高柳駅でもふるさと協議会の広報をしようというお話しがあったため、連合会で作成した紙うちわを参考にしてほしい。</li> <li>・支えあいが上手くいっている。</li> <li>・若い方と交流を深めていきたいが、何かをやろうとすると役員の負担になるという矛盾で悩んでいる。</li> <li>・活動への巻き込み方として、副班長制度などのある程度むりやり仲間に入れてしまうという方法もある。また、防犯パトロールが入り口としてよく、その後一杯飲むこともつながりづくりとして良い。</li> </ul>

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・若い方の居場所づくりを長年取り組む中で、つながりが出来ている。藤ヶ谷新田のような小さいエリアだからできるという一方、新しい人が入ってこない状況もある。</li><li>・担い手不足は何とかなる。</li><li>・個人に負担がかかる活動では後継者が出てきにくいため組織的に改善していきたい。</li><li>・地域活動団体を支援することがふるさと協議会の存在意義になるような活動をしている。</li><li>・負担軽減では、市が依頼している事務手続きが多すぎ負担になっているため、手続きを簡潔に、窓口を一本化してほしい。</li><li>・マンションに限らず町会を抜けてしまう方に対し、市としても町会の必要性を訴えかけていく。</li></ul> |
|--|